

「セーフコミュニティを学ぼう！」

「セーフコミュニティ」って何？聞いたことがありますか？！Vol.3では、セーフコミュニティの歴史、日本におけるセーフコミュニティの状況について説明します。

セーフコミュニティの歴史

コミュニティレベルでの安全向上活動のモデル「セーフコミュニティ」の第一人者であるレイフスヴァンストローム氏によると、基盤となる取り組みは、1975年にスウェーデンにおいて始まったとされています。スカラーボリ群にあるファルシェーピング市において、全ての年齢層・環境・状況を対象とした包括的な手法によって外傷の発生をコントロールする試みが始まりました。その試みは、新しい仕組みを構築するのではなく、従来からある組織の協働によって行われました。

彼らは、1978年には、外傷に関する記録を開始し、1979年に外傷の予防対策に着手しました。その後、3年で、就労・家庭そして交通に関する受傷は27%減少し、ファルシェーピングは、1991年にセーフコミュニティとして認証（世界で5番目）されることとなりました。

この取り組みは、周辺の自治体でも導入され、1980年初期には、これらの自治体間でのセーフコミュニティに関するネットワークが構築されました。さらに、その後、ノルウェーやオーストラリアの幾つかのコミュニティでも取り組みが始まり、国を越えたセーフコミュニティのネットワークが誕生しました。

1986年には、当時、健康課題として外傷に関心を寄せていた世界保健機関（WHO）との協力関係が構築され、1989年には、レイフスヴァンストローム氏が所属するカロリンスカ医科大学にWHO協働センターが設置され、セーフコミュニティ認証制度が始まりました。以来、国や地域を越えてその概念と活動は広がり続け、2014年5月現在では、約340のコミュニティが「セーフコミュニティ」として認証されています。

出典：安全なまちづくり 日本版「セーフコミュニティ」の進め方

セーフコミュニティ

- 1975年 外傷の発生をコントロールする試みが始まる。
- 1978年 外傷に関する記録開始
- 1979年 外傷の予防対策着手
- 1986年 WHO(世界保健機関)との協力関係が構築される。
- 1989年 WHO協働センターが設置され、認証制度が始まる。

日本における セーフコミュニティ

2000年ごろから公衆衛生等の一部の領域の研究者がセーフコミュニティの概念に着目し、関心を寄せていました。また、「セーフティプロモーション」というアプローチに関心をを持った研究者や実践家もいましたが、実際にコミュニティレベルにおいて活動が開始されたのは、2006年に京都府亀岡市が府から打診を受けてセーフコミュニティに取り組んでからです。

京都府亀岡市は、2006年7月に着手し、2008年3月に認証を受けました。それ以降、次第に日本国内でも広がり始め、2016年3月現在では、13自治体が認証取得をしています。

セーフコミュニティ 認証取得自治体

開始	自治体名	認証年月
2006年	京都府亀岡市	2008年3月
2007年	青森県十和田市	2009年8月
2008年	神奈川県厚木市	2010年11月
2009年	長野県箕輪町	2012年5月
2010年	東京都豊島区	2012年11月
2010年	長野県小諸市	2012年12月
2010年	横浜市栄区	2013年10月
2011年	埼玉県北本市	2015年2月
2011年	大阪府松原市	2013年11月
2011年	福岡県久留米市	2013年12月
2012年	滋賀県甲賀市	2016年2月
2012年	埼玉県秩父市	2015年11月
2013年	鹿児島県鹿児島市	2016年1月

セーフコミュニティ認証の7つの指標

①組織の設置	分野の垣根を越えた協働を基盤とした推進組織を設置する。
②長期で継続的なプログラム	全ての性別、年齢、環境、状況をカバーする。
③安全性を高めるプログラム	ハイリスクの集団・環境、及び弱者を対象としたプログラムを実施する。
④エビデンス（証拠・根拠）	根拠に基づいたプログラムを実施する。
⑤記録	傷害が発生する頻度とその原因を記録するプログラムがある。
⑥アセスメント（客観的評価）	プログラムの内容・実施工程・影響をアセスメントするための評価基準がある。
⑦ネットワークへの参加	国内及び国際的なセーフコミュニティネットワークへ継続的に参加する。



認証取得までの流れ



2年以上の活動実績が必要です！